3　各課報告

3.1　図書館庶務課

図書館庶務課の業務は、図書館の利用者サービス、資料組織化・保存業務を背後から支え、サービス部門、目録部門業務の維持・向上のための環境整備が大きな役割である。課内は、庶務、経理、発注 (中央図書館資料)、図書館システムの各担当により構成される。1 年間の主な定例業務を以下にあげる。

- 会計監査対応
- 文部科学省私立大学経常経費特別補助申請関連業務
- 「教育・研究に関する中・長期計画書」取りまとめ
- 予定経費要求書取りまとめ
- 予算執行管理
- 調達・契約関連業務
- 調査・統計業務
- 各種委員会運営
- 図書館各種刊行物の刊行
- 各種渉外業務

以下に、2004 年度の特筆すべき事項を報告する。

1. 旧法学部資料センター所蔵資料の処理
   ローライブラリー設置にともない、旧法学部資料センター所蔵資料の移管を行なった。図書館未所蔵資料の受入を基本とし業務委託により簡易目録データの作成を行なった。現在、法学部による重複資料の廃棄作業の進展を待機している状態である。

2. 図書館システムの更新
   今年度はクライアント側パソコンのリプレースを夏期休暇中に実施した。更新内容は別紙にゆずるが、この作業のためシステム担当者は休暇返上での作業を強いられることになった。システム関連人員体制は、今後の大きな検討課題である。

3. 新学部、新研究科設置にともなう資料購入
   法科大学院、会計専門職研究科、文学部研究科臨床人間学専攻、情報コミュニケーション学部、グローバルビジネス研究科、ガバナンス研究科の新設 (または設置予定) に対応し、それぞれ特別予算を設定し、資料を購入した。

4. 書店連携システム委託業者の見直し
2005年度からの委託開始を目標に、学習用和書の書店連携システム委託業者の見直しを行なった。これまで、目録作成・装備業務委託と資料調達を一括して同一業者契約としていたが、これを切り離した別契約とすることとした。12月に業者説明会を実施し、和書整理業務委託、洋書整理業務委託については競争入札で、学習用図書調達についてはプロポーザル方式でそれぞれ契約業者を確定した。

5. 年度をまたがる前払いの処理の変更
これまで洋雑誌等前払いで納期が年度内に終了しないものについても当該年度の予算での支払を行なってきた。今年度から「学校法人会計基準」準拠を目的として、納品される年度の予算で支払処理を行なうよう、経理処理を変更した。

6. 大型寄贈の受贈
2004年度は、本学元教員2名から旧蔵書の寄贈をいただいた。1件は主として文化人類学分野の和洋書資料約3,500冊、もう1件は東欧政治関連資料(主にポーランド語)約3,200冊であった。

7. 『アフリカ目録 補遺版』の刊行
『アフリカ文庫目録 補遺版 1994年2月～2004年3月』を刊行した。図書4,834冊、逐次刊行物363タイトルを収録した。なおこれを機に、関係分野からの要望が多かった『アフリカ文庫目録 1994年1月』(図書5,781冊、逐次刊行物274タイトルを収録)の増刷も行なった。

3.2 整理課

2004年度の和書書店連携システムでの年間整理冊数は、約21,000冊と2003年度とほぼ同数となった。登録冊数が30,000冊となっており、その7割近くを業務委託で処理された。洋書については、登録冊数約14,000冊の内11,000冊が業務委託で処理され、約7割8分に達している。

和書については、2002年度登録の『和田清漢籍コレクション』を、2004年10月から2名体制での処理としたが、2004年度内に終了できなかったことが悔やまれる。2005年度の早い時期での終了を期している。また和書については図書資料データの一元化の一環として、10月から博物館資料の入力が開始された。以後博物館の資料については、蔵書の配架を博物館にしておくことには変更はないが、目録データの入力については図書館が行うこととなる。さらに、2005年度から、通常の業務委託による博物館の新刊受入図書の処理に加えて、遡及予算がついたことにより、遡及入力も業務委託での入力処理が開始されることとなる。

洋書については、2004年度に大型の寄贈資料の処理は無かったが、未遡及の大学院旧分類図書のうち、「大工」については処理が終わり、つづいて大工以外の図書が遡及される予定となっている。また、『アフリカ文庫 補遺版』(2005年3月刊行)の編集作業を行った。

和・洋とも委託業者入力後の専任職員によるデータチェックについては、一方では業務委託の効率からの不要論があるが、整理課では書誌の品質管理の観点から従来と同様のチェックを継続している。2004年度にはNIIの書誌ユーティリティプロジェクトが発足し、

NACSIS-CAT/ILLの品質管理の維持を検討していることもあり、今の段階では書誌チェックなしで処理されたものを流すことは考えていない。ただし、チェックの簡素化を目指すことは継続して検討している。

データ整備は開始して2年であるが、処理対象のうち中央図書館書庫分の約42％が終了している。

業務委託が開始されて4年半を経過し、和・洋とも委託業者の見直しが行われ、競争見積の結果、和書は委託業者の変更があり、洋書は継続の業者への委託となった。

3.3 総合サービス課

中央図書館が開館して4年が過ぎた。図書館利用者は940,015人、昨年比10.5％減となった。短期大学、二部の募集停止などの影響かと思われるが、貸出冊数は増加し191,978冊、昨年比4.1％増となった。

2004年の中央図書館の活動概要は以下のとおりである。

1. 利用者範囲の拡大
   2004年12月から、国立情報学研究所情報資料センターと明治大学図書館との相互利用申し合わせに基づき、総合研究大学院大学情報学専攻の大学院生が中央図書館を利用ができるようになり、本学大学院生が国立情報学研究所情報資料センターを利用できるようになった。また、リバティ・アカデミーの英国リーズ大学国際修士号取得コースの開講に伴い、受講生が中央図書館を利用できるようになった。

2. ギャラリー展示
   2004年度より中央図書館ギャラリー企画運営WGが組織され、企画運営を行った。展示内容は「図書の文化史」(5月26日～7月31日)、「経済学の古典－本学所蔵原本とリプリント版－」(10月19日～12月4日)、「布施辰治展」(2005年1月13日～2月28日)、「新収貴重書展」(3月26日～4月28日)である。布施辰治の企画展は韓国の建国勲章受賞記念シンポジウム「布施辰治・自由と人権」(2005年1月13日)にあわせて実施したもので、石巻文化センターからも資料の提供を受け、大変に好評であった。開催にあわせて納谷総長兼学長、土屋法学部長、野上図書館長の出席のもとにオープンセレモニーを行ったことも初めての試みであった。

3. 保存書庫への蔵書移転
   中央図書館書庫の狭隘化に伴う資料移転作業は、洋書約30,000冊を保存書庫に移転した。継続して移転作業を行う予定である。

4. ローライブラリーの開館
   2004年度の法科大学院開設にあわせてローライブラリーが開館し、運用を開始した。日曜日も中央図書館と同様に10時から17時までの開館である。

5. 実務実用書コーナーの設置
   実務実用書コーナーを設け、選書規準には外れるが購入申込のあった図書や寄贈図書を地下2階書架に配架し、利用に供した。

6. 新聞書評欄コーナーの設置
新聞書評欄コーナーを設け、朝日・毎日・読売・日経・図書新聞・読書人に取り上げられた図書を地下2階書架に配架し、利用に供した。

7. 蔵書点検
夏季休暇期間中に蔵書点検を実施し、年2回の蔵書点検を行った。中央図書館の蔵書点検は4年で一巡するサイクルで行うことにした。

8. 盗難事件への対応
館内で盗難事件が頻発し、掲示や館内の巡回を強化するなどして利用者に注意を促し、再発防止に努めた。

9. 「文献複写申込書」による複写
6月1日より図書館資料の複写については、国公立私立大学図書館協力委員会と(社)日本複写権センターとの間で合意された「大学図書館における文献複写に関する実務要領」に基づき、「文献複写申込書」への記入を利用者に依頼し、実施することにした。

3.4 和泉図書課

和泉図書館は、「利用しやすい図書館」を目指し、資料の充実、施設の改善、資料配架の工夫等を行っている。2004年度は、開館時間の延長、自動貸出機の設置、OPAC端末の増設等、利用者サービスの向上を目指し、改善を行った。

1. 開館時間の延長
2004年度、カリキュラム改革により昼夜開講・7講時制となった。これを受け和泉図書館の開館時間の延長を行い、平日の開館時間を2時間延長した。

- 平日 8:30〜22:00
- 土曜 8:30〜19:00

2. 自動貸出機2台の設置
情報コミュニケーション学部の新設、5学部の定員増、夜間開館延長等、利用者の増加に対応し、さらにサービスの強化を目的として、自動貸出機2台を設置した。和泉図書館エントランスホールと2階雑誌カウンター前に各1台設置した。

3. ブックリターンポスト(研究棟)の設置
研究棟1階教員連絡ボックスに隣接して、ブックリターンポストを1台設置し、教員へのサービスを強化した。

4. OPAC端末のリプレース、増設(2台)
OPAC端末のリプレースに伴い、端末を2台増設した。第2開架閲覧室、書庫B2に各1台設置した。

5. 図書館講演会「著者と語る」
第6回図書館講演会「著者と語る」を、10月20日、和泉図書館で開催した。今回は、信州上田の「無言館」「信濃デッサン館」館長窪島誠一郎氏を招き、「信州の美術館で想うこと-明大前物語を書き終えて-」と題し講演を行った。当日は台風が夕方に来襲するという悪天候の中、学外からも多くの方の参加があり盛会であった。

6. 近代文学文庫の展示
和泉キャンパスで開催された「明治大学杉並区内大学講座 政治と文学」(10月2日から10月23日の毎土曜日)に合わせて、和泉図書館所蔵近代日本文学文庫のコレクションの中から、有島武郎、北村透谷、芥川龍之介、徳冨蘆花の著作を館内に展示した。

7. 杉並区図書館ネットワーク
2004年7月26日、杉並区立図書館、明治大学和泉図書館、女子美術大学杉並図書館、高千穂大学図書館、東京立正女子短期大学図書館、立教女学院短期大学図書館の参加により杉並区図書館ネットワーク発足の調印が行われ、8月2日から大学図書館の区民への開放(閲覧・貸出)、11月1日から大学図書館間の開放(閲覧・貸出)が実施された。

3.5 生田図書課

ここ数年来掲げている「利用しやすい図書館」の構築を継続するとともに、書庫内整備、目録情報の整備、利用者に直接目に触れない部分での改善にも努めた。

1. レファレンス・カウンター、貸出カウンターの移設
従来の参考・雑誌カウンターは、正面入口から入って一番奥に位置していたため、利用者の目に止まりにくく、また、その役割もよく理解されていなかった。そのことは、秋に実施された図書館利用者アンケートにも如実に現れた。そのため、場所を入ってすぐ左側に移すとともに貸出カウンターを隣接させ、利用者の便を図った。また、入庫者には2FからB2Fまで階段を利用していただいていたが、レイアウトを変更したことにより入庫者のエレベータ利用が可能となった。

2. 屋上防水工事
2004年度は異常気象と思われるくらい台風が上陸した。そのため、2回閉館時間を繰り上げる措置をした。その台風により、参考・雑誌コーナー付近に天井からの漏水が発生したため、関係部署に緊急調査を依頼した。その結果、屋上の防水工事が必要ということがわかり、利用の比較的少ない入試期間中にその工事を行った。

3. 冷暖房設備、放送設備の更新
当館にはこれまで独自の冷暖房設備がなく、日曜・休日開館日、開館時間延長時間帯には、ボイラー係員の休日勤務、時間外勤務が不可欠となっていた。このため、図書館独自の冷暖房設備の設置を要求し、承認されたことによって、夏期休暇中に設置工事が行われた。現在では、図書館がその開館時間に合わせて稼動することができるようになった。また、耐用年数を超えていた放送設備の更新も行われた。

4. 書庫内整備

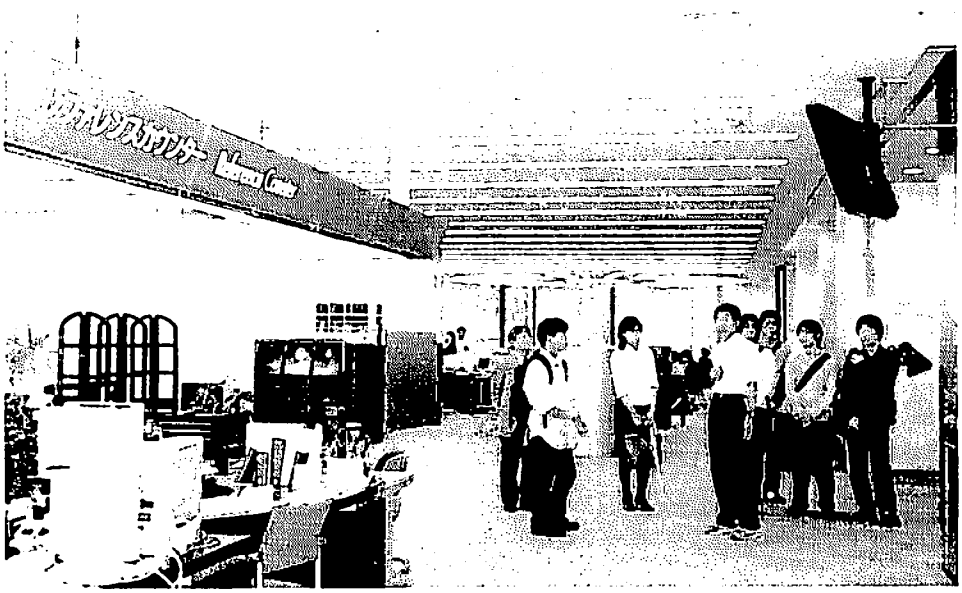
明治大学図書館は最近年間50,000冊を超える資料を受け入れている。その結果、全蔵書数は200万登録を超え、三地区の書庫は飽和状態となっている。そのため、資料の有効的保存を図るため、図書館としての「資料保存方針検討WG」が設置され、生田図書館にある保存書庫での保存方針も確立された。この方針に従い、生田図書館資料および保存書庫資料の除籍作業を始めた。他方、農業経済学科資料室および工業化学科資料室に収められていた図書館資料が返却され、B2書庫に集中配架された。

5. 目録情報の整備

本学図書館資料の全データは、全て機械処理されOPACとして公開されている。しかし、その遡及業務は外部委託という形で行われ、そのデータの点検が十分でないまま今日に至っている。そのため、検索結果データの正確性に欠ける面が多であった。それを少しでも是正するため、春季にリストと現物の照合による蔵書点検をおこなった。今回は、分類番号0から3門まで、約17,700登録を行ったが、書誌・所蔵の訂正は5％だった。今後計画的に継続していく。

6. 個人情報保護に関する監査

個人情報保護に関する監査が、高地茂世・法学部教授を監査人として行われた。図書館で所蔵している個人情報、提出を求めている個人情報の取り扱い方、保存方法等について細かい監査が行われた。現在では記載を求めていない欄がそのまま残っている申込用紙は、改訂するよう指導を受けた。また、委託業者も含めた構成員の研修・指導等の方針を明らかにするよう求められた。



中央図書館ゼミツアー風景